

病床に見る世相（二）

市川 浩

東京醫科大學の本年度入試にて文部科學省局長の子息を、正規の採點數に大幅の加點を行ひ、合格せしめたるあり。國の私立大學支援事業の對象への選定に當り、便宜を計りたる見返りなりと云々。そのテレビ報道に同學の門標の放映あり、見れば「東京醫科大學」とありて、今時珍しき正漢字表記目を惹きたり。文科省は義務教育に於ける學年別配當表や表外字の表内字への宛字化など漢字の學習、研究を妨ぐる施策を頑なに撤回せず、未だに將來漢字廢止の方針なるを隱さざるが如し。例へば「國學院大學」等の表記には大學設置法に基く大學は「大学」にして「大學」に非ずとの忖度を感じしむ。門標とは言へ、完全正表記には今なほ大量の表外字術語の使用を要する醫學界の文科省に對する問題提起として意味ありと見ゆれば、折角軒昂の意氣瀆職事件絡みにて渦みつらむを惜しむ。

本年は六月梅雨入り前より各地にて眞夏日の報道相繼ぎ、しかも六月中とて記録的早期に梅雨さへ明くるなど、猛暑を豫想せしむ。七月に入りて、本州西端より九州に懸け、天氣圖は雨雲の停滯を示し續け、氣象廳は七日九州三縣、中國三縣に大雨特別警報を發し、近來稀の水害發生を豫告す。直後より當該地方の豪雨による河川の氾濫始り、放映するテレビの畫面も未だ見ることもなかりし猛被害にノアの洪水もかくやとこそ恐ろしけれ。雨雲去れば猛暑到來し、是また從前の暑さを上回ること、岐阜にては三九度を越え、熊谷は四一・一度と云々。

かゝる猛暑に想起す平成二十三年東日本大震災の當時、温暖化輕減の有力手段たる原子力發電の再稼働は海江田通産相決意するも、菅首相これを默殺、不足電力は一般家庭の停電にて補ふこととなり、國民もこれを諒とす。然るに電力會社苦心の停電地域實施計畫も、實際には醫療、治安など停電不可設備の有無による地域別の不公平感高まり、數週間後この政策は中止となり、直ちに廢卻間近の舊式火力發電所の再稼働と、その燃料たる石油を世界に求めたり。是により日本人は假初めに電力不足を免れ、その代償として、地球温暖化加速し、貿易收支、延いて經常收支の赤字を背負ふ。「原発なくとも困らじ」の風瀾漫し、原子力發電に就き討論に採上ぐるさへ禁忌とせらるゝが如し。原発再稼働は極めて困難となり、本來再稼働の最終意思決定者たる縣知事の選挙にても、立候補者は意思表示を故意に避く。最近の氣象情報、日本各地特に本州全域の高溫、西日本の豪雨等詳細の解説あるも、附近上空の氣象條件との關聯を主とし、今日最大の問題たる地球温暖化への接近殆どなし。無論短時間の氣象情報番組にては無理と承知するも、猛暑對策は小間目の水分、鹽分の攝取を主とし、極く最近漸く室内冷却エアコンを獎勵するに至るも、原子力を採上ぐる媒體稀なり。

かゝる趨勢下、東京電力は福島第二原子力發電所の廢爐を決意し、更にこれを株主總會に諮る。朝日新聞デジタルは「遅きに失したが、評價したい」との聲株主より出づと報ず。震災當時被災地域には、福島第一、第二、及び女川原発が存在し、福島第一は今日なほ慘狀消えぬ被害あるも、残り二つの原発は無傷にて震災を乗切たり。原発問題はなほ論議定らずと雖も、少くとも「想定外」の震災に堪へたる原子力發電所二カ所あるを、一つの勝利として評價すべきにあらずや。然るにこれを勝利と呼ぶさへ憚り、弊履の如く捨て去る東京電力の意思決定を悲しむ。

世界中が温暖化防止に取組む中、我が國はむしろ温暖化を加速すること七年、未曾有の猛暑となり、特に高齢者の熱中症多發するに至る。われも高齢者として、中學生時代炎天下の校庭に整列して校長先生の訓示を伺ひけるを思ひ出すも、當時は精々三〇度まで。今日の猛暑とは比べものに非ざるを忘

るなゆめと自戒す。

（平成三十年八月三日受付）